

カーブのある交差点 Curved Intersection

浮川秀信・谷口 歩

UKIGAWA Hidenobu, TANIGUCHI Ayumu

2026年5月13日(水) - 5月23日(土)

pm 12-7 休廊：日・月・火曜

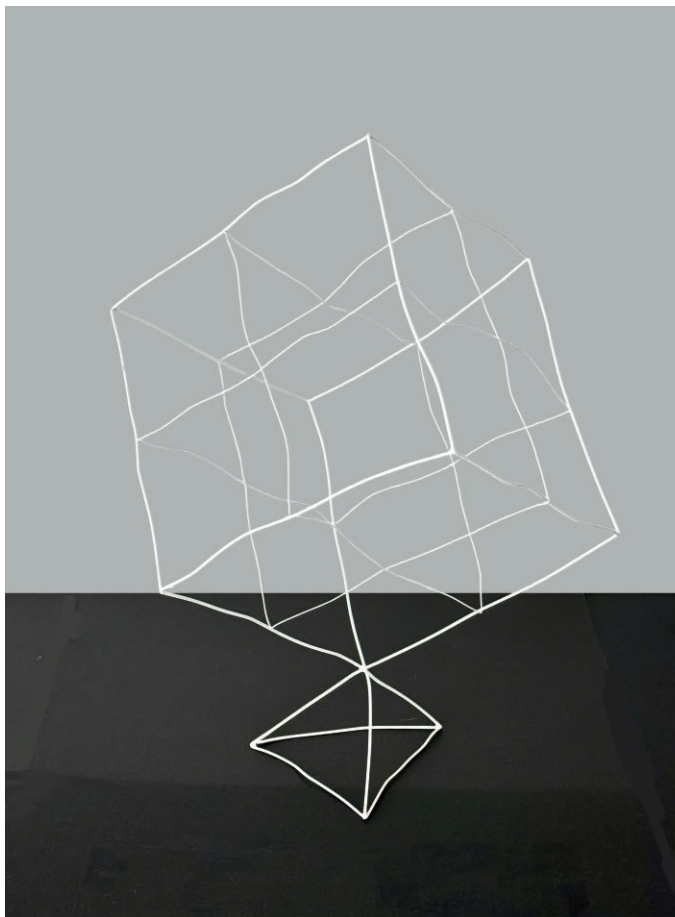
浮川秀信、谷口歩による2人展、「**カーブのある交差点**」を開催します。

ピアノ線を銀口ウで接合し組み上げられた浮川の立体は、細い線がかすかに揺らぎ、見る角度によって多様な様相を現します。わずかに曲げられ、接続された線を目で追ううちに、ピアノ線特有の硬質な質感は次第に和らぎ、その輪郭は曖昧さを帯びていきます。浮川はこのピアノ線作品を空気をつかまえる装置だと言います。

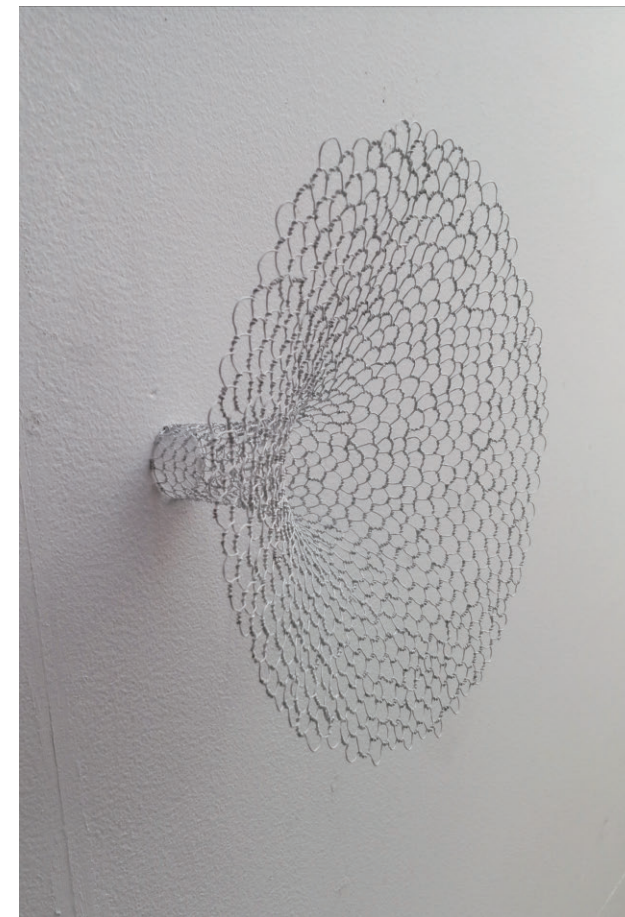
一方、谷口は細いワイヤーを編み込みながらイメージを立ち上げていきます。一つの「わ」からスタートするカタチは連なりながら展開していきます。繊細な手仕事の積み重ねは、内側の輪郭を外へと押し広げていく行為でもあります。

本展は、2人の作家の細い金属の線から生まれる造形で空間を構成します。硬いピアノ線と柔らかいワイヤーが、鋭くあるいは緩やかにカーブを描きながら、同じ空間で出会い交差し、鑑賞者の視覚を揺らします。

+1art



《無題》浮川秀信 / ピアノ線 (銀口ウ付け組立て ラッカー塗装) 1500x1000x1000mm 2026



《wireworks - wave-》谷口 歩 / 針金 190x190x103mm 2025

| 展示作品 |

●浮川秀信

立体 (ピアノ線 銀口ウ付け組み立て ラッカー塗装)

- ・ 2000 x 500 x 500 mm 1点
- ・ 1000 x 1000 x 500 mm 2点
- ・ 1500 x 1000 x 1000 mm 1点

●谷口 歩

立体 (針金による造形) によるインスタレーション

- ・直径150~250 x 100~250 mm 約40点
- ・直径30~50 x 500 mm 程度 約3点

浮川秀信

UKIGAWA Hidenobu



一目一目編まれた作品に驚いた「彫刻は空間を纏う」と言うが、想いを込めて「空間を編み込んで行く」その様に見えたからである、針金(ピアノ線)を簡単に組んで空気の出入りするフレームで箱様のモノを作っていた私にはこんな手もあったのかと驚いたのである、線を組めば箱と認識してしまう、そして見えない面が意識され中と外違う空間ができる、様に見える、そこで取りあえず空気を入れる棚を作ってみる、しかしこの辺りで進展ナシ、そこで見たのが谷口さんの作品、そうか空気を編み込むという手もあったのか、取りあえず空気を震わしてみよう、惑わせてみよう。

(浮川秀信)

1968年 大阪学芸大学(現大阪教育大学)絵画専攻科修了。大阪を拠点に活動。
1969年の初個展(あの画廊)、以降ほぼ毎年個展開催(信濃橋画廊 他)、アートナウ77(1976)、日本国際美術展(1978,'79,'81)など、70年代から彫刻作品の発表を続け 現在に至る。近年の展覧会に猫亀屋(2025、大阪)、ギャラリー勇齋(2025、奈良)、+1 art(2024、大阪)、またアートフェアにART OSAKA2025(2022、大阪市中央公会堂)などがある。

谷口歩

TANIGUCHI Ayumu



浮川さんが空気をつかまえたり、棚に空気をおさめたりすると聞いて、作品が不思議な装置に見える。私は? 作品において空気をどう扱ってるのかと考えてみた。すると、私は編むという行為の始点である「わ」(作り目)を口のようなものとして結び、捉えている感じがする。空気に向かって口をひらく。外と内の間、そこから編むことで手をのびし網をひろげ、拡張する触覚から世界を知ろうとする。作品は私の器官のようなものかもしれないと思う。今日のところは。

(谷口 歩)

多摩美術大学大学院修了。東京を拠点に活動。
近年の主な活動に、2026年「アートフェア東京20」、2025年「ART OSAKA」(共にギャラリー石榴)、個展「-Day by day-」(AURORA GRAN GALLERY)、グループ展にCharity & Auction「安全な一日」(+1 art)、2024年「SICF25」などがある。針金や糸等を用いた主に立体表現を制作、発表をしている。